

国立民族学博物館研究報告 vol.10-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	10
号	4
発行年	1986-03-29
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009226

1985—10_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告

- ミクロネシアにおける母系制社会の変質
——トラック語圏社会の出自集団の構造—— 須藤健一
- サタワル島における伝統的航海術の研究
——洋上における位置確認方法とエタック (*yeták*) について—— 秋道智彌
- 現代イスラームにおける宗教勢力と政治的対立
——カイロにおけるアズハル=フセイン複合体とサラフィー主義—— 小杉 泰
- ブラーフマナ文献の祭式解釈
——古代インド季節祭 *Cāturmāsya* を例として—— 永ノ尾信悟
- チェレミス語とヴォチャーク語における引用小辞
——ウラル諸語におけるチュルク的引用表現—— 庄司博史
- 民具研究の展開
——1960年以後—— 中村俊亀智
- 中東・北東アフリカに見られる憑霊信仰ザールの伝播経路に関する一考察—— 清水芳見
- Rural Reforms and Household Economies in
the Dike-Pond Area of the Zhujiang Delta, China—— Kenneth Ruddle



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

10 卷 4 号

1985年

目次

ミクロネシアにおける母系制社会の変質 ——トラック語圏社会の出自集団の構造——	須藤健	827
サタワル島における伝統的航海術の研究 ——洋上における位置確認方法とエタック (<i>yeták</i>) について——	秋道智彌	931
現代イスラームにおける宗教勢力と政治的対立 ——カイロにおけるアズハル=フセイン複合体とサラフィー主義——	小杉 泰	959
ブラーフマナ文献の祭式解釈 ——古代インド季節祭 Caturmāsya を例として——	永ノ尾信悟	1001
チェレミス語とヴォチャーク語における引用小辞 ——ウラル諸語におけるチュルク的引用表現——	庄司博史	1069
民具研究の展開 ——1960年以後——	中村俊亀智	1103
中東・北東アフリカに見られる憑霊信仰ザールの 伝播経路に関する一考察	清水芳見	1123
Rural Reforms and Household Economies in the Dike-Pond Area of the Zhujiang Delta, China	Kenneth Ruddle	1145
彙 報		1175
国立民族学博物館研究報告10巻総目次		1179
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		1180
国立民族学博物館研究報告執筆要領		1181

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 10 No. 4

1985

SUDO, Ken-ichi	Structural Change of Matrilineal Descent Group in Greater Trukese Society, Micronesia	827
AKIMICHI, Tomoya	Navigational Knowledge of the <i>Yetāk</i> System and Allocation at Sea on Satawal, Central Caroline Islands	931
KOSUGI, Yasushi	Religious Forces and Political Conflicts in Contemporary Islam: the <i>Azhar-Husayni</i> Complex and the <i>Salafiyyah</i> in Cairo	959
EINOO, Shingo	The Interpretation of Cāturmāsya Sacrifice according to the Ancient Indian Brāhmaṇa Literature	1001
SHOJI, Hiroshi	Quotation Particle in Cheremis and Votyak: Turkic-type Quotation in Uralic Languages	1069
NAKAMURA, Shunkichi	Progress of Studies on Folk Tools: Since 1960	1103
SHIMIZU, Yoshimi	A Study of the Diffusion Routes of the <i>Zār</i> Cult to the Middle Eastern Countries	1123
RUDDLE, Kenneth	Rural Reforms and Household Economies in the Dike-Pond Area of the Zhujiang Delta, China	1145

彙 報

(昭和60年10月～
昭和60年12月)

人事異動

(教育職) (昇任)

10月1日 第四研究部助教授 石森 秀三
(第四研究部助手)
第一研究部助教授 宮本 勝
(第二研究部助手)

シンポジウム

「博物館に於ける民族学的資料—その特性と保存—」

期間 昭和60年12月2日(月)—9日(月)

場所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合案内
所求是荘

摘要 民族学博物館では収集した資料を物質文化の研究に提供するとともに広く一般にも公開してその利用に供するための施設であるが, 近年の価値の多様化に伴って民族学資料の種類も多様化しているが, 同時に保存すべき価値自体にも変化が生じている。とくに最近の急激な社会変化のなかで消滅しつつある各種の生活資料を如何に保存したらよいかは, 世界的に新しい問題となっている。このシンポジウムはそうした動向を視野において, これまで美術・歴史関係の資料を中心に考えられてきた博物館資料の保存科学研究とは異なる視点での方法論を求めて討議を行なった。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究
部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究
部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究
部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究
部長

杉本 尚次 国立民族学博物館第五研究
部長

秦 明夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

森田 恒之 国立民族学博物館第五研究
部助教授

委員

小谷 凱宣 国立民族学博物館第一研究
部助教授

大森 康宏 国立民族学博物館第三研究
部助教授

大丸 弘 国立民族学博物館第五研究
部助教授

吉本 忍 国立民族学博物館第二研究
部助手

磯村 紘 国立民族学博物館管理部庶
務課長

佐藤 嗣 国立民族学博物館情報管理
施設資料室長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務
理事

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事
業部長

参加者

Pia Odgaard コペンハーゲン王立芸
術大学(デンマーク)

Colin Peason キャンベラ教育大学
(オーストラリア)

Carolyn L. Rose スミソニアン自然史博
物館(アメリカ合衆国)

Sue Walston オーストラリア博物館
(オーストラリア)

杉下龍一郎 東京芸術大学美術学部教授

大丸 弘 国立民族学博物館第五研究部
助教授

福本美知子 人間博物館リトルワールド研
究員

増沢 文武 元興寺文化財研究所保存科学
研究室長
三浦 定俊 東京国立文化財研究所研究員
三野 紀雄 北海道開拓記念館学芸員
森田 恒之 国立民族学博物館第五研究部
助教授

日 程

12月2日(月) (千里阪急ホテル)
受付
事務打合せ
12月3日(火) (国立民族学博物館)
開会式
<セッション1 問題提起>
(座長 大丸 弘, 三野 紀雄)
博物館における民族学資料の特
質と保存 (森田 恒之)
民族学博物館の資料保存に伴な
う諸問題 (Carolyn L. Rose)
国立民族学博物館見学
12月4日(水) (国立民族学博物館)
<セッション2 金属製民族資料の保
存> (座長 杉下龍一郎, Carolyn L.
Rose)
金属製民族資料の保存の諸問題
(Colin Peason)
漁業資料の保存と展示—金属製
品を主に (増沢 文武)
<セッション3 民族資料の機能と形
態の保存>
(座長 Pia Odgaard, 三浦 定俊)
衣服の保存と美観の関係
(大丸 弘)
湿度変化に敏感な脆弱資料の取
り扱い (Sue Walston)
12月5日(木) (国立民族学博物館)
<セッション4 ケース・スタディ>
国立民族学博物館所蔵資料の保

存について
自由討議
午後京都へ移動
12月6日(金) (京都科学標本株式会社, 奈良国
立文化財研究所ほか)
<見学と観光> レプリカ製作
工場, 奈良国立文化財研究所保
存科学研究施設見学のち奈良
市内観光
夕食の後, 大津へ移動
12月7日(土) (求是荘)
<セッション5 野外における民族資
料の保存> (座長 Colin Peason)
寒冷地の石像に生じる凍結破壊
の対策 (三浦 定俊)
<セッション6 野外博物館の民家と
民具>
(座長 Sue Walston, 森田 恒之)
北海道開拓村における民具の保
存 (三野 紀雄)
人間博物館リトルワールドの民
家移築 (福本美知子)
12月8日(日) (求是荘)
<セッション7 民族資料と保存技術
者の養成>
(座長 福本美知子, 増沢文武)
コペンハーゲン王立芸術大学文
化財保存課程における歴史・民
族資料の保存教育
(Pia Odgaard)
文科系出身者を対象とした保存
科学教育 (杉下龍一郎)
<セッション8 総合討論>
(座長 森田 恒之)
閉会式
12月9日(月) (ホテル・レークビワ)
報告書作成等に関する事務打ち合せ
昼食後解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
加藤 九祚	教授(第四研究部)	60.10.1	60.10.15	ソ連

彙 報

石森 秀三	助教授 (第四研究部)	60.10.10	60.11.18	連合王国, クック諸島, フィジー
杉田 繁治	助教授 (第五研究部)	60.10.17	60.10.28	中華人民共和国
吉田 集而	助教授 (第二研究部)	60.10.26	60.11.5	マレーシア
佐々木高明	教授 (第二研究部)	60.10.28	60.11.11	ペルー
園田 英弘	助教授 (第二研究部)	60.10.28	60.11.29	アメリカ合衆国, カナダ
崎山 理	助教授 (第五研究部)	60.10.30	60.12.3	ミクロネシア連邦
石毛 直道	助教授 (第四研究部)	60.11.15	60.11.20	大韓民国
ケネス・ラドル	助教授 (第五研究部)	60.11.8	60.12.19	ベニン共和国, 連合王国
加藤 九祚	教授 (第四研究部)	60.11.22	60.11.29	ソ連
長野 泰彦	助教授 (第一研究部)	60.11.29	61.1.9	ネパール, インド, パキスタン
石毛 直道	助教授 (第四研究部)	60.12.21	60.12.28	大韓民国
和田 祐一	教授 (第三研究部)	60.12.25	61.1.1	ニューカレドニア

来館者抄

10月2日 モンゴル人民共和国代表团
 N. LUVSANCHULTEM (モンゴル平和友好諸団体連合執行委員会議長)
 S. TSEGMID(モンゴル日本協会会長)
 D. ALUMAAS (モンゴル日本協会事務局長)
 L. ERDENECHYLUN (モンゴル外務省報道局長)

10月8日 Christopher FREEMAN (イギリス, サセックス大学科学政策研究所教授)

10月11日 中国文化部一行
 邢 乘 順(対外連絡局副局長)
 張 明 華 (対外連絡局アジア処処長)
 魏 中 珂 (芸術局音楽舞踏処副処長)
 彭 卿 雲 (文物局研究室副主任)
 石 永 菁 (対外連絡局アジア処処員)

10月15日 Ulla WAGNER (スウェーデン, スウェーデン国立民族学博物館長)

中国中央民族学院一行
 回 景 芳 (中央民族学院院長弁公室主任)
 楊 甲 榮 (中央民族学院留学生漢語教研室主任)
 張 興 權 (中央民族学院外賓接待科科長)

10月22日 Mostafa ABD EL-MOATIE(エジプト, 文化省造形美術次官兼国立美術センター所長)

10月28日 Gerardo FOGEL (パラグアイ, アスンシオン国立大学教授)

10月29日 中国日本研究者代表团
 団長 彭 晋 璋 (中華全国日本経済学会秘書長, 中国社会科学院日本研究所副所長)
 顧問 閔 夢 覚 (吉林大学教授, 「現代日本経済」編集長)
 団員 宋 海 文 (上海復旦大学世界経済研究所経済研究室主任, 副教授)
 李 文 光 (天津南開大学経済研究所教授, 「現代日本経済」編集委員)
 徐 洞 生 (河北大学日

- 本研究所)
 趙 春 元(東北師範大
 学日本研究所)
 任 文 侠(吉林大学副
 教授,「現代日本経済」副
 編集長)
 陳 本 善(吉林大学日
 本研究所)
 張 北(中国社会科
 学院日本研究所)
 徐 熾(中国未来研
 究会副秘書長,副編集長)
 朴 成 昊(遼寧省社会
 科学院文献情報センター
 副主任)
 金 光 根(天津社会科
 学院日本研究所)
 沈 希 紅(中国社会科
 学院日本研究所)
 郭 洪 茂(吉林省社会
 科学院日本研究所副所
 長)
 白 国 棟(中華全国經
 济学会幹事)
- 10月31日 Day WILLIAM 夫妻(カナダ,
 ダグラス・カレッジ学長夫妻)
 Gilgan GORDON 夫妻(カナダ,
 ダグラス・カレッジ学部長夫妻)
 三宅 享(桃山学院大学教授)
 Jose Antonio D. DUSTO(ペル
 ー,リマ・カトリック大学教授)
- 11月7日 Joseph C. BLUMEL(アメリカ
 合衆国,ポートランド州立大学
 長)
- 11月12日 福永 英二(アフリカ協会専務
 理事)
- 11月21日 筒井 嘉隆(芦屋大学講師)
- 11月23日 伊東俊太郎(東京大学教養学部
 教授)
 藤澤 令夫(京都大学文学部教
 授)
- 11月24日 CHILASHVILI(ソビエト連邦,グ
 ルジア共和国国立博物館長)
 BARKOVA(エルミタージュ博物
 館)
 BELIAEVA(エルミタージュ博物
 館)
- 11月25日 中国,中央檔案館計算機系統設
 計応用調研訪日団
 団長 王 明 哲(中央檔案館
 館長,中国檔案学会副理
 事長)
 副団長 高 嘉 彦(中国康華
 実業有限公司副總經理)
 団員 邱 曉 威(中央檔案館
 技術処副処長,中国檔案
 学会檔案自動化委員会副
 主任)
 戴 璞 男(中央檔案館
 技術処計算機室主任)
 訳員 張 慶 陽(中国気象科
 学研究院研究室副主任)
- 11月28日 金窪 敏知(建設省国土地理院
 長)
- 12月1日 黒住 一昌(群馬大学教授)
- 12月2日 Laurance P. ROBERTS(アメリ
 カ合衆国,東洋美術史研究家)
- 12月5日 Fasco MARAINI(イタリア,フ
 ィレンツェ大学名誉教授)
- 12月10日 J. A. BARNETT(ブリティッシュ
 ・カウンシル駐日代表者)
- 12月10日 Aloyse WARHOVER(フラン
 ス,ローヌ地方県議会副議長
 ウソワクサンジュ市長)
- 12月19日 Mongkol SAMRANSUK(タイ,
 教育省芸術局国立博物館課民族
 学主事)
 Somying SAHASSANONE(タイ,
 教育省芸術局芸術大学講師)
- 12月23日 下河辺 淳(総合研究開発機構
 理事長)
- 12月25日 Cornelius OUWEHAND(スイス,
 チューリッヒ大学日本文化学科
 教授)

国立民族学博物館研究報告 10巻 総目次

10巻1号

藤井 龍彦：中央アンデスの農民と牧民の結婚	
友枝 啓泰 ——バンパマルカ教区（アプリマク県）婚姻登録の分析——	1
木村 秀雄：ボリビア北西部・アンデス東斜面のケチュア農村における環境利用	
——アマレテ村の事例——	43
八杉 佳穂：ユカテクマヤ語の正書法の歴史——マヤ人の文字使用との関連において——	93
中谷 英明：「スバシ写本」の願望法語尾——仏教サンスクリット成立の一局面——	111
大丸 弘：現代和服の変貌 II——着装理念の構造と変容——	131

10巻2号

宮本 勝：ミンドロ島ハヌノオ・マンヤン族の‘裁判人’	243
大塚 和夫：下エジプトのムスリムにおける結婚の成立過程	
——カリュービーヤ県ベンハー市とその周辺農村の事例を中心に——	273
細川 弘明：アンデス東斜面溪谷部，ケチュア農民の生業と交易活動	309
車 政弘：国立民族学博物館所蔵の韓国の収納家具——その技術とデザイン——	365
大林 太良：熊祭の歴史民族学的研究——学史的展望——	427
佐々木史郎：クマ祭に集まる人々	
——狩猟儀礼に表出するエヴェンキ族の社会構成原理について——	451
SEKINE, Yasumasa: “Pollution”, “Purity” and “Sacred” The Ideological Configuration of Hindu Society	481

10巻3号

櫻井 哲男：巫俗儀礼の音——韓国済州島の事例から——	551
長野 泰彦：嘉戎語の能格性	575
西田 正規：中緯度森林の定住民	603
吉田 集而：バプアニューギニア，イワム族の農耕に関する	
民俗分類の予備的報告	615
大丸 弘：服装専門検索語辞書（MCD シソーラス）の構造	681
高橋 晴子	
嶋本 隆光：12イマーム派シーア主義におけるイマーム・アリー的位置について	
——イラン人ムスリムの場合——	725
森田 恒之：民族資料の展示におけるクールビームライト照明の影響について(1)	755
Kenneth Ruddle: Labor Supply and Demand in a Complex System: Integrated Agriculture-Aquaculture in the Zhujiang Delta, China	773

10巻4号

須藤 健一：マイクロネシアにおける母系制社会の変質	
——トラック語圏社会の出自集団の構造——	827
秋道 智彌：サタワル島における伝統的航海術の研究	
——洋上における位置確認方法とエタック (yeták) について——	931
小杉 泰：現代イスラームにおける宗教勢力と政治的対立	
——カイロにおけるアズハル=フセイン複合体とサラフィー主義——	959
永ノ尾信悟：ブラーフマナ文献の祭式解釈	
——古代インド季節祭 Cāturmāsya を例として——	1001
庄司 博史：チュレミス語とヴォチャーク語における引用小辞	
——ウラル諸語におけるチュルク的引用表現——	1069
中村俊亀智：民具研究の展開——1960年以後——	1103
清水 芳見：中東・北東アフリカに見られる憑霊信仰ザールの伝播経路に関する一考察	1123
Kenneth Ruddle: Rural Reforms and Household Economies in the Dike-Pond Area of the Zhujiang Delta, China	1145

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 10卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編集委員〕

永ノ尾 信 悟

大 塚 和 夫

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

周 達 生

杉 村 棟

須 藤 健 一

垂 水 稔

中 山 和 芳

八 杉 佳 穂

和 田 正 平

昭和61年3月29日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 10卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.10 no.4
1985

- | | |
|---------------------|---|
| SUDO, Ken-ichi | Structural Change of Matrilineal Descent Group in Greater Trukese Society, Micronesia |
| AKIMICHI, Tomoya | Navigational Knowledge of the <i>Yeták</i> System and Allocation at Sea on Satawal, Central Caroline Islands |
| KOSUGI, Yasushi | Religious Forces and Political Conflicts in Contemporary Islam: the <i>Azhar-Husayni</i> Complex and the <i>Salafiyyah</i> in Cairo |
| EINOO, Shingo | The Interpretation of Cāturmāsya Sacrifice according to the Ancient Indian Brāhmaṇa Literature |
| SHOJI, Hiroshi | Quotation Particle in Cheremis and Votyak: Turkic-type Quotation in Uralic Languages |
| NAKAMURA, Shunkichi | Progress of Studies on Folk Tools: Since 1960 |
| SHIMIZU, Yoshimi | A Study of the Diffusion Routes of the <i>Zār</i> Cult to the Middle Eastern Countries |
| RUDDLE, Kenneth | Rural Reforms and Household Economies in the Dike-Pond Area of the Zhujiang Delta, China |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X